



## 付録

---

- [ポリシーパラメータ \(1 ページ\)](#)
- [通話用プロトコルハンドラ \(16 ページ\)](#)
- [サービス品質 \(20 ページ\)](#)
- [Unified CM で信頼できない証明書を許可する \(23 ページ\)](#)

## ポリシーパラメータ

ポリシーパラメータについては、次の表を参照してください。これらのパラメータによって、Webex アプリ の特定のクライアント機能を制御できます。

## 機能パラメータ

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
CucmCallBargeMode	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>OFF</b> (デフォルト) — [割り込み (barge) ] ボタンは Webex アプリ に表示されます。</li><li>• <b>BARGE</b> — 割り込みの開始者は割り込みの招待を送信し、割り込み先は会議サーバーとして機能します。</li></ul> 例： <CucmCallBargeMode>BARGE</CucmCallBargeMode>	

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
E911EdgeLocationWhiteList	<p>セミコロンで区切られた最大 30 のサービスセット ID (SSID) のホワイトリストを指定します。</p> <p>E911EdgeLocationPolicy パラメータが [True] に設定されている場合は、このパラメータをかならず構成してください。その後クライアントは、モバイルおよびリモートアクセスネットワーク向けの Expressway を介して企業のネットワークに接続するユーザを監視します。</p> <p>例：</p> <pre>&lt;EnableE911EdgeLocationPolicy&gt;true&lt;/EnableE911EdgeLocationPolicy&gt; &lt;E911EdgeLocationWhiteList&gt;SSID1;SSID2&lt;/E911EdgeLocationWhiteList&gt;</pre>	デスクトップおよびモバイル
EnableCallPark	<p>クライアントでコールパーク機能を使用できるかどうかを指定します。[コールパーク (call park) ] 機能にアクセスするには、[通話 (Call) ] ウィンドウで [詳細 (More) ] オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) — コールパークが有効です。</li> <li>• <b>false</b> — コールパークが無効です。コールパーク オプションが [詳細 (More) ] ボタンの下に表示されません。</li> </ul>	デスクトップ
EnableCallPickup	<p>ユーザが自分のコールピックアップグループ内のコールをピックアップできるかどうか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : コールピックアップを有効にします。</li> <li>• <b>false</b> : コールピックアップを無効にします (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableE911EdgeLocationPolicy	<p>ユーザがモバイルおよびリモートアクセス向け Expressway を介して企業のネットワークに接続するときに、クライアントがワイヤレスロケーションモニタリングを使用することを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : Webex アプリが MRA を介してワイヤレスロケーションを監視します。また、サービスセット ID (SSID) を使用して、E911EdgeLocationWhiteList パラメータを構成する必要があります。セミコロンで区切られた最大 30 の SSID のリストを構成できます。</li> <li>• <b>false</b> : Webex アプリは、ワイヤレスロケーションを監視しません (デフォルト)。</li> </ul> <p>例 :</p> <pre>&lt;EnableE911EdgeLocationPolicy&gt;true&lt;/EnableE911EdgeLocationPolicy&gt; &lt;E911EdgeLocationWhiteList&gt;SSID1;SSID2&lt;/E911EdgeLocationWhiteList&gt;</pre>	デスクトップおよびモバイル
EnableE911OnPremLocationPolicy	<p>クライアントがオンプレミス展開でワイヤレスロケーションモニタリングサービスを使用することを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : オンプレミスに接続されている場合、Webex アプリは常にワイヤレスロケーションを監視します。</li> <li>• <b>false</b> : Webex アプリ オンプレミスに接続されていても、ワイヤレスロケーションを監視しません (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル
EnableGroupCallPickup	<p>コールピックアップグループ番号を入力して、ユーザが別のコールピックアップグループの着信コールをピックアップできるかどうか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : グループコールピックアップを有効にします。</li> <li>• <b>false</b> : グループコールピックアップを無効化します (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableHuntGroup	<p>ユーザがハントグループにログインできるかどうか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : ユーザはハントグループにログインできます。</li> <li>• <b>false</b> : ユーザは、ハントグループにログインできません (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル
EnableMeetingPowerUp	<p>ユーザがアクティブコールを会議に移動するよう指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : コールを会議に移動できるようにします。</li> <li>• <b>false</b> : コールを会議に移動できないようにします (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップ
EnableOtherGroupPickup	<p>ユーザが、自分のコールピックアップグループに関連付けられたグループ内の着信コールをピックアップできるかどうか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : 他のグループのコールピックアップを有効にします。</li> <li>• <b>false</b> : 別のグループコールピックアップを無効化します (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableRecordingTone	<p>ユーザの録音トーンを有効します。このパラメータは、LocalRecordingToneVolume、NearEndRecordingToneVolume、RecordingToneDuration、RecordingToneIntervalの他のパラメータと連携します。</p> <p>(注) rrecording tone パラメータを追加する前に、Unified CM service パラメータで録音通知トーンを再生できるようにしてください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager の機能とサービスガイド』にある「モニタリングと録音」章を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b>—録音トーンを有効にします。(デフォルト)</li> <li>• <b>false</b>—録音トーンを無効にします。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル
LocalRecordingToneVolume	<p>クライアントが録音トーンをローカルで再生する音量を指定します。</p> <p>範囲は 0 ~ 100% で、デフォルトは 10 です。</p> <p>例：  <code>&lt;LocalRecordingToneVolume&gt;25&lt;/LocalRecordingToneVolume&gt;</code></p> <p>録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、「EnableRecordingTone」を参照してください。</p> <p>。</p>	デスクトップおよびモバイル
NearEndRecordingToneVolume	<p>Webex がリモートデバイスおよび近端録音サーバーに送信する録音トーンの音量を指定します。</p> <p>範囲は 0 ~ 100% で、デフォルトは 10 です。</p> <p>例：  <code>&lt;NearEndRecordingToneVolume&gt;25&lt;/NearEndRecordingToneVolume&gt;</code></p> <p>録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。</p>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
PreventDeclineOnHuntCall	<p>ハントグループに着信コールがあった場合に、[拒否] ボタンを表示するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : ハントグループの着信コールに対して [拒否 (Decline) ] ボタンは表示されません。</li> <li>• <b>false</b> : ハントグループの着信通話で [拒否 (Decline) ] ボタンが表示されます (デフォルト)。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル
RecordingToneDuration	<p>シングルトーンのミリ秒を指定します。</p> <p>範囲は 100 ~ 2000 で、デフォルトは 500 です。</p> <p>例 :</p> <pre>&lt;RecordingToneDuration&gt;500&lt;/RecordingToneDuration&gt;</pre> <p>録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、<a href="#">EnableRecordingTone</a> を参照してください。</p>	デスクトップおよびモバイル
RecordingToneInterval	<p>連続トーン間のミリ秒を指定します。</p> <p>範囲は 8000 ~ 32000 で、デフォルトは 11500 です。</p> <p>例 :</p> <pre>&lt;RecordingToneInterval&gt;11500&lt;/RecordingToneInterval&gt;</pre> <p>録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、<a href="#">EnableRecordingTone</a> を参照してください。</p>	デスクトップおよびモバイル

## カスタマイズパラメータ

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
DeskPhoneModeWindowBehavior	<p>デスクフォン制御モードで呼制御ウィンドウを表示するかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>OnCall</b> (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation) ] ウィンドウが表示されます。</li> <li>• <b>Never</b> : コールへの応答時に [会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。</li> <li>• <b>NotOnHold</b> : コールが共有回線デバイスで保留されている場合、[会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。その他のシナリオではウィンドウが表示されます。</li> </ul>	デスクトップ (Windows のみ)
E911NotificationFrequency	<p>緊急通話の免責事項の頻度を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>FirstSignIn</b> (デフォルト) — 初回サインインした時のみ免責事項を表示します。</li> <li>• <b>EverySignIn</b> — ユーザーがサインアウトし、サインインするごとに免責事項を表示します。</li> <li>• <b>Never</b> — 免責事項は表示されません。</li> </ul> <p>初回サインインのみに免責事項を表示する例 &lt;E911NotificationFrequency&gt;FirstSignIn&lt;/E911NotificationFrequency&gt;</p>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
E911NotificationURL	<p>サインインするたびに、カスタマイズ可能な免責事項に関するメッセージまたは通知がユーザーに表示されます。テレフォニー機能を有効にする前にユーザーはこれに同意する必要があります。このプロンプトにより、ユーザーは免責事項または通知を確認できます。</p> <p>このパラメータの値を、通知メッセージをホストしている有効な HTML Web ページの URL に設定します。</p> <p>例 :</p> <pre data-bbox="665 741 1201 762">&lt;E911NotificationURL&gt;http://www.example.com/e911.html&lt;/E911NotificationURL&gt;</pre> <p>企業のネットワークの外部で稼働するすべてのアプリで Web ページが正しく表示されるようにするには、スクリプトおよびリンク タグが E911NotificationURL パラメータでサポートされていないため、Web ページに静的な HTML ページを指定する必要があります。</p>	デスクトップおよびモバイル



パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableADLockPrevention	<p>サインイン試行の失敗の最大数に対して <b>Active Directory</b> サーバーを構成できます。この設定により、一部の <b>Webex</b> 展開で誤ったアカウントロックアウトが発生する可能性があります。たとえば、<b>SSO</b> 認証のない展開では、すべての <b>Webex</b> サービスが同じ不正なログイン情報を <b>AD</b> サーバーに送信し、失敗カウンタを急速に引き上げる可能性があります。</p> <p>この問題が発生した場合は、<b>EnableADLockPrevention</b> を使用して、サービスが同じ不正なログイン情報を <b>AD</b> サーバーに送信しないようにすることができます。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> —1 つのサービスが無効なログイン情報エラーを受け取った後、<b>Webex</b> は同じログイン情報を持つすべてのサービスを停止します。</li> <li>• <b>false</b> (デフォルト) — <b>Webex</b> は無効なログイン情報エラーを無視し、サインインの試行を続行します。</li> </ul> <p>例：  <code>&lt;EnableADLockPrevention&gt;true&lt;/EnableADLockPrevention&gt;</code></p>	デスクトップおよびモバイル
EnablePhoneDataOptinOverMRA	<p>インドの規制により、ユーザーは企業のネットワークに接続していない場合、<b>VoIP</b> アプリを使用して <b>PSTN</b> 通話を発信できません。</p> <p><b>Webex</b> モバイルユーザーが外にいて、<b>Webex</b> の連絡先電話番号に電話をかけたい場合、アプリは組み込みの電話アプリを使用して電話をかけるオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> —<b>MRA</b> 環境からのすべての通話は、電話オプションダイアログに表示されます。</li> <li>• <b>false</b> (デフォルト)  —ユーザーが接続しているネットワークに関係なく、電話オプションダイアログは表示されません。</li> </ul>	モバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableVideo	<p>ユーザーが発信通話と着信通話でビデオを使用できるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) — ユーザーは、発信通話と着信通話でビデオを使用できます。</li> <li>• <b>false</b> ユーザーは、発信通話と着信通話でビデオを使用できません。すべての通話は、音声のみの通話となります。</li> </ul> <p><b>重要</b> このキーが構成されている場合、キーの設定は常に <b>Control Hub の設定</b> よりも優先されます。キーに値が構成されていない場合、Control Hub の設定が有効となり、ビデオを有効にするか無効にするかを決定します。</p>	デスクトップおよびモバイル
RemoteEditingWithMultipleDevices	<p>複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できるかどうかを決定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) : 複数のデバイスを使用するユーザは、リモートの接続先を編集または追加できます。(デフォルト)</li> <li>• <b>false</b> : 複数のデバイスを使用するユーザは、リモート接続先を編集または追加できません。</li> </ul>	デスクトップ

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
<b>RemoteUsePresencePrimaryLineOnly</b>	<p>複数回線を持つユーザがコールに参加している場合のプレゼンスの動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : ユーザがプライマリラインを使用している場合にのみ、<b>RemoteInUse</b> プレゼンスが表示されます。たとえば、ユーザの 2 番目の回線がデスクフォンと同じ番号を共有している場合、デスクフォンからコールを行っても、ユーザのステータスは「通話中」とは表示されません。</li> <li>• <b>false</b> (デフォルト) : ユーザが使用する回線に関わらず、すべての回線で <b>RemoteInUse</b> プレゼンスが表示されます。たとえば、ユーザの 2 番目の回線がデスクフォンと同じ番号を共有している場合、デスクフォンからコールを行うと、ユーザのステータスは「通話中」として表示されます。</li> </ul> <p>(注) このパラメータは、<b>Unified CM</b> で選択可能なプリセットではありません。ポリシーにカスタムパラメータとして追加する必要があります。</p>	デスクトップ
<b>SelfCareURL</b>	<p><b>Cisco Unified Communications Manager</b> サービスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。</p> <p><b>Cisco Unified Communications Manager</b> でデフォルトのサービスプロファイルが選択されていない場合のセルフケアポータル URL を定義します。</p> <p>例 :</p> <pre>&lt;SelfCareURL&gt;https://selfcare.example.com/&lt;/SelfCareURL&gt;</pre>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
ShowSelfCarePortal	<p>[オプション (Options) ]ダイアログに[セルフケアポータル (Self Care Portal) ]タブを表示するか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) : [オプション (Options) ]ダイアログに[セルフケアポータル (Self Care Portal) ]タブが表示されます。</li> <li>• <b>false</b> : [オプション (Options) ]ダイアログに[セルフケアポータル (Self Care Portal) ]タブを表示しません。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル
ShowCallAlerts	<p>着信コールアラートを表示するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) : 着信電話アラートが常に表示されます。</li> <li>• <b>false</b> : 着信コールアラートは表示されません。</li> </ul>	デスクトップ (Windows のみ)
ShowPhoneNumInLineSelection	<p>回線選択ドロップダウンに電話番号を表示するかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) — 回線選択ドロップダウンメニューで回線の電話番号 (DID または内線番号) が表示されます。回線にテキストラベルが構成されている場合は、番号とラベルが表示されます。</li> <li>• <b>false</b> — 回線選択ドロップダウンメニューで回線の電話番号 (DID または内線番号) が表示されません。回線のテキストラベルのみが表示されます。</li> </ul>	デスクトップ (Windows のみ)

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
SoftPhoneModeWindowBehavior	<p>ソフトフォンモードで呼制御ウィンドウを表示するかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>OnCall</b> (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation) ] ウィンドウが表示されます。</li> <li>• <b>Never</b> : コールへの応答時に [会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。</li> <li>• <b>NotOnHold</b> : コールが共有回線デバイスで保留されている場合、[会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。その他のシナリオではウィンドウが表示されます。</li> </ul>	デスクトップ (Windows のみ)
StartCallWithVideo	<p>ユーザーが着信通話のビデオを開始できるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> (デフォルト) — 着信通話でビデオを送信します。</li> <li>• <b>false</b> — 着信通話でビデオを送信しませんが、ビデオは受信できます。</li> </ul>	デスクトップおよびモバイル

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
UserDefinedRemoteDestinations	<p>ユーザは、クライアント インターフェイスを使用してリモート接続先を追加、編集、および削除できます。拡張機能と接続機能をプロビジョニングしてデフォルトの動作を変更するには、このパラメータを使用します。</p> <p>デフォルトでは、ユーザのデバイス リストに CTI リモート デバイスだけが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、または削除できないようにします。これは、割り当てられた専用のリモート デバイスをユーザが変更できないようにするためです。ただし、ユーザのデバイス リストにソフトフォンデバイスまたはデスクフォンデバイスが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、および削除できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。</li> <li>• <b>false</b> (デフォルト) : ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。</li> </ul>	デスクトップ

## Jabber to Webex アプリ migration パラメータ

パラメータ	説明と値	サポートされるプラットフォーム
EnableJabber2TeamsMigration	<p>Jabber から Webex アプリ にデータを移行する候補としてユーザをタグ付けします。このプロセスにより、ユーザの連絡先（バディ）リストおよび共通の設定が Webex アプリ に渡されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>true</b> : ユーザは、両方のアプリケーションで電子メールアドレスが一致していれば、Jabber から Webex アプリ にデータを移行できます。データの移行は、ユーザが Jabber にサインインしてから 5 分～3 時間以内に開始されます。または、ヘルプメニューから手動で移行を開始することもできます。</li> <li>• <b>false</b> : Jabber から Webex アプリ へのデータの移行はユーザに表示されません。（デフォルト）</li> </ul> <p>(注) このパラメータは、Unified CM で選択可能なプリセットではありません。ポリシーにカスタムパラメータとして追加する必要があります。</p>	デスクトップ
WebexTeamsDownloadURL	<p>アップグレード中にユーザが Webex アプリ をダウンロードしなかった場合のために、ダウンロードできる場所を指定します。この URL の値を追加しないと、ユーザは管理者に連絡してヘルプを求めるように指示されます。</p> <p>例（公式のダウンロードページを使用）：</p> <pre>&lt;WebexTeamsDownloadURL&gt;https://www.webex.com/downloads.html&lt;/WebexTeamsDownloadURL&gt;</pre> <p>(注) このパラメータは、Unified CM で選択可能なプリセットではありません。ポリシーにカスタムパラメータとして追加する必要があります。</p>	デスクトップ

## 通話用プロトコルハンドラ

Webex アプリでのコール (Unified CM) は、オペレーティング システムで次のプロトコルハンドラを登録して、Web ブラウザまたはその他のアプリケーションからの click-to-call 機能を有効にします。次のプロトコルは、Webex アプリが Mac または Windows でデフォルトの通話アプリケーションになっていると、音声通話またはビデオ通話を開始します。

- CLICKTOCALL: または CLICKTOCALL://
- SIP: または SIP://
- TEL: または TEL://
- WEBEXTEL: または WEBEXTEL://

```

sip://12345
sip:12345
sip://test@example.com
sip:test@example.com
tel://12345
tel:12345
tel://test@example.com
tel:test@example.com
clicktocall://12345
clicktocall:12345
clicktocall://test@example.com
clicktocall:test@example.com

```

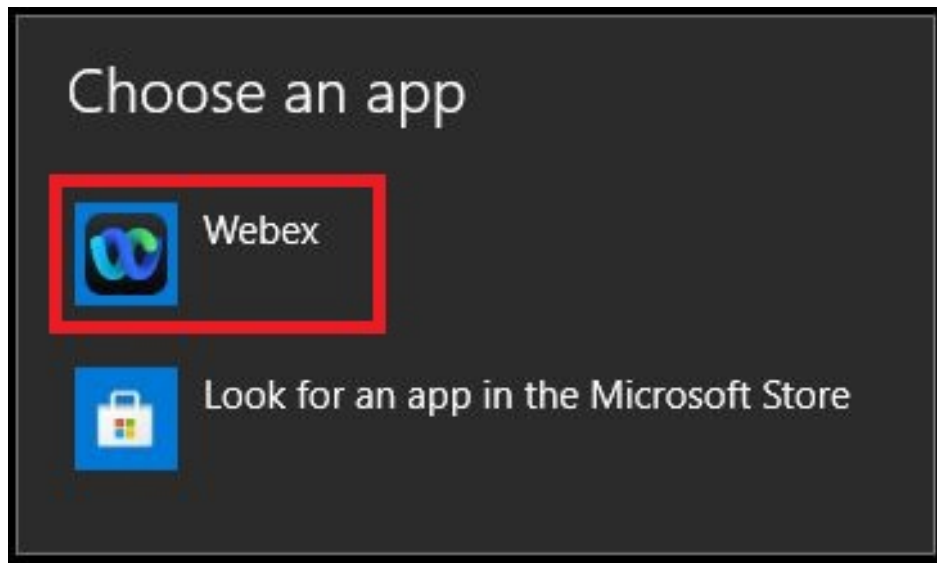


(注) これらのプロトコルに対してアプリが起動されたときに Unified CM が未接続の場合、Webex アプリは Unified CM が接続するまで 3 分間待機します。接続されていない状態が 3 分経過すると、コール要求は停止します。SIP アドレスを使用してコールを開始する場合 (例: sip:test@example.com)、コールは、制御ハブにある組織の SIP アドレスルーティング設定に応じて、クラウドまたはユニファイド CM を経由する場合があります。

## Windows 用プロトコルハンドラ

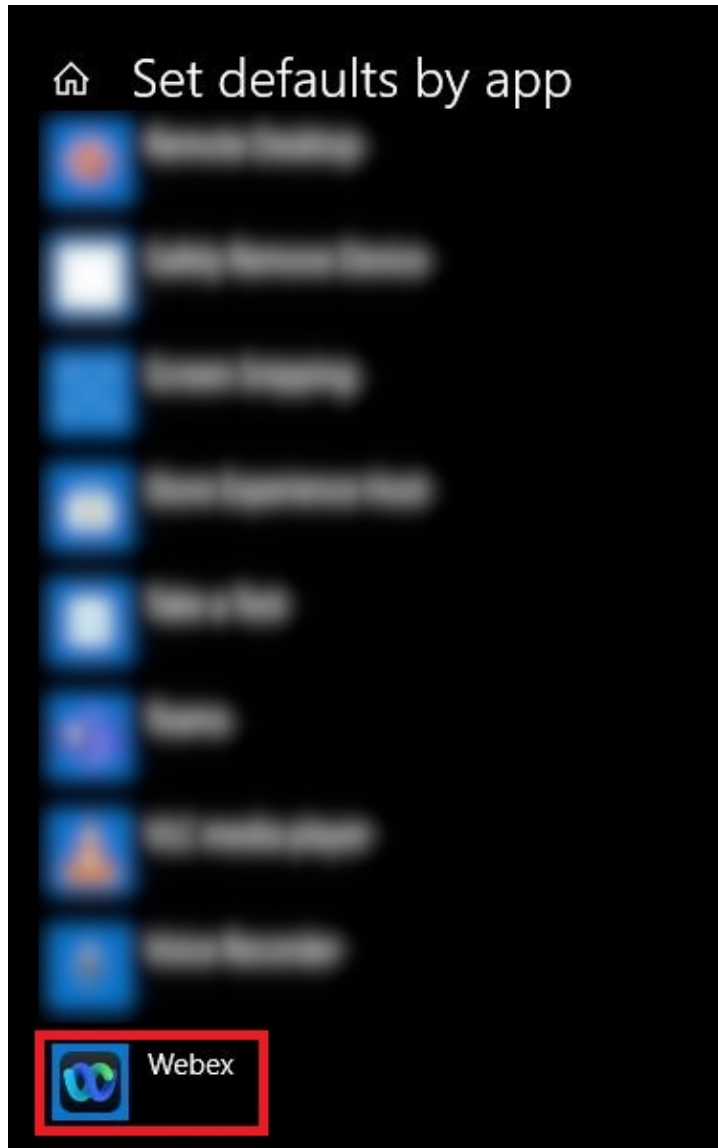
他のアプリは、Webex アプリの前にプロトコルハンドラに登録できます。Windows 10 では、コールの起動に使用するアプリを選択するように、システム ウィンドウがユーザに要求します。ユーザが常にこのアプリを使用するをオンにすると、ユーザ設定を記憶できます。



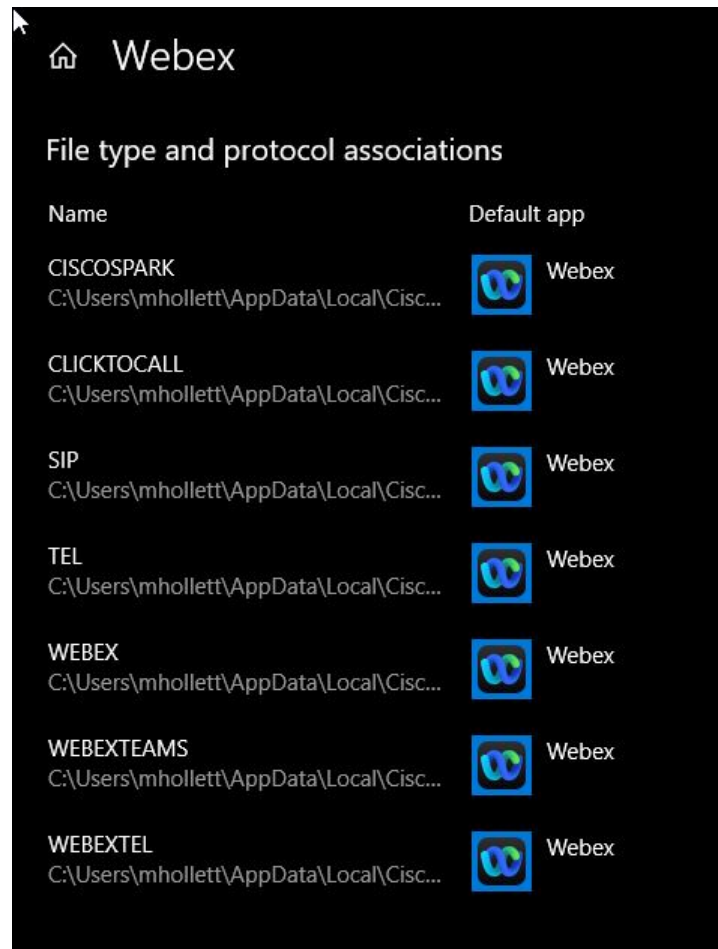


Webex アプリ を選択できるようにするために、ユーザがデフォルトの通話アプリの設定をリセットする必要がある場合は、Windows 10 で Webex アプリ のプロトコルの関連付けを変更するように指示できます。

1. システム設定で [既定のアプリ (Default app)] の設定を開き、[アプリごとに既定値を設定する (Set defaults by app)] をクリックして、[Webex アプリ] を選択します。



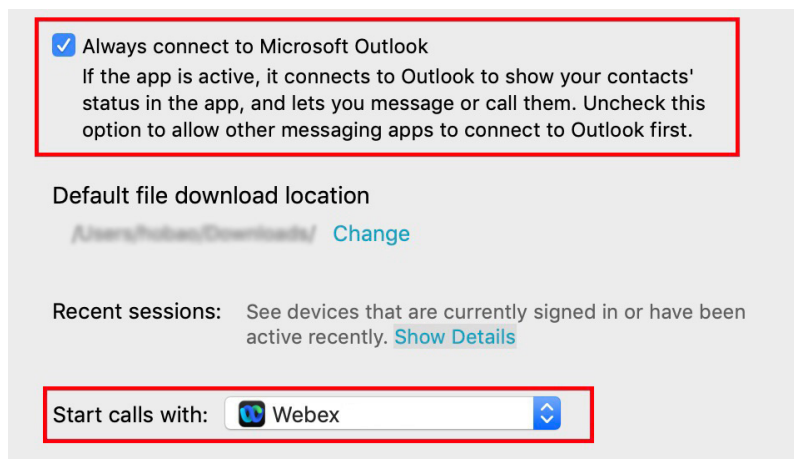
2. 各プロトコルに対して **Webex** アプリ を選択します。



## macOS 用プロトコルハンドラ

Mac OS では、他のアプリが Webex アプリ よりも先に通話プロトコルに登録されている場合、ユーザーは Webex アプリ をデフォルトの通話オプションとして設定する必要があります。

Mac 用 Webex アプリ では、一般設定の [通話の開始 (Start calls with)] 設定で **Webex アプリ** が選択されていることを確認します。また、[常にMicrosoft Outlookに接続 (Always connect to Microsoft Outlook)] をオンにすると、Outlook 連絡先の番号をクリックしたときに Webex アプリ でコールを発信できます。



## サービス品質

### Quality of Service オプション

Webex アプリの Quality of Service (QoS) を構成するには、次のオプションを使用します。

- サポートされるコーデック (20 ページ)
- SIP プロファイルでのポート範囲の定義 (21 ページ)
- DSCP 値の設定 (21 ページ)

### サポートされるコーデック

タイプ	コーデック	コーデックタイプ	Webex アプリ (Mac の場合)	Webex アプリ (Windows の場合)
音声	G.711	A-law	はい	はい
		μ-law/Mu-law	はい	はい
	G.722		はい	はい
	G.722.1	24 kb/s および 32 kb/s	はい	はい
	G.729		いいえ	いいえ
	G.729a		はい	はい
	Opus		はい	はい

タイプ	コーデック	コーデックタイプ	Webex アプリ (Mac の場合)	Webex アプリ (Windows の場合)
ビデオ	H.264/AVC		はい	○

## SIP プロファイルでのポート範囲の定義

クライアントは、ポート範囲を使用して、ネットワークに RTP トラフィックを送信します。また、クライアントは、ポート範囲を均等に分割して、下半分を音声コール用に、上半分をビデオコール用に使用します。オーディオメディアおよびビデオメディアのポート範囲を分割する結果として、クライアントにより識別可能なメディアストリームが作成されます。IP パケットのヘッダー内の DSCP 値を設定することで、それらのメディアストリームを分類し、優先させることができます。

**ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。

**ステップ 2** [デバイス (Device) ] > [デバイスの設定 (Device Settings) ] > [SIP プロファイル (SIP Profile) ] の順に選択します。

**ステップ 3** 適切な SIP プロファイルを検索するか、新しい SIP プロファイルを作成します。

[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration) ] ウィンドウが開きます。

**ステップ 4** オーディオとビデオに共通または個別のポート範囲を設定するかどうかを指定します。音声とビデオのポート範囲を分離している場合は、音声ポートとビデオポートを提供します。次のフィールドにポート範囲を指定してください。

- [開始メディアポート (Start Media Port) ] : メディアストリームの開始ポートを定義します。このフィールドは、範囲の最小ポートを設定します。
- [終了メディアポート (Stop Media Port) ] : メディアストリームの終了ポートを定義します。このフィールドは、範囲の最大ポートを設定します。

**ステップ 5** [設定の適用 (Apply Config) ] を選択し、[OK] をクリックします。

## DSCP 値の設定

RTP メディアパケットヘッダーで Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) の値を設定し、ネットワークを通過する Webex アプリ トラフィックに優先順位をつけます。

## Unified CM での DSCP 値の設定

Unified CM で、オーディオメディアとビデオメディアの DSCP 値を設定できます。Webex アプリは、デバイス構成から DSCP 値を取得し、RTP メディアパケットの IP ヘッダーに直接適用します。



**制約事項** Microsoft Windows 10 などのオペレーティングシステムには、アプリケーションが IP パケットヘッダーに DSCP 値を設定できないようにするセキュリティ機能があります。そのため、Microsoft グループポリシーなどの DSCP 値をマーキングするための代替方式を使用する必要があります。

**ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

**ステップ 2** [システム(System)] > [サービスパラメータ(Service Parameters)] を選択します。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが開きます。

**ステップ 3** 適切なサーバを選択してから、[Cisco CallManager (Cisco CallManager)] サービスを選択します。

**ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (システム : QOS) (Clusterwide Parameters (System - QOS))] セクションを見つけてください。

**ステップ 5** 適切な DSCP 値を設定し、[保存 (Save)] を選択します。

## グループポリシーを用いた DSCP 値の設定

Windows 用 Webex アプリを Microsoft Windows 7 以降などのオペレーティングシステムに展開する場合は、Microsoft グループポリシーを使用して DSCP 値を適用できます。

グループポリシーを作成するには、Microsoft サポートの記事 (<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771283%28v=ws.10%29.aspx>) の手順を実行します。

次の属性を用いて音声メディアとビデオメディアに別々のポリシーを作成する必要があります。

これらの指示は、Webex アプリを経由する Unified CM コールに適用されます。Webex アプリのみのコールについては、Webex アプリの「[ネットワーク要件](#)」のドキュメントに記載されているガイドラインを使用してください。

属性	音声ポリシー	ビデオポリシー	シグナリングポリシー
アプリケーション名	CiscoCollabHost.exe	CiscoCollabHost.exe	CiscoCollabHost.exe
プロトコル	UDP	UDP	TCP

属性	音声ポリシー	ビデオ ポリシー	シグナリング ポリシー
ポート番号または範囲	Cisco Unified Communications Manager 上の SIP プロファイルからの対応するポート番号または範囲。	Cisco Unified Communications Manager 上の SIP プロファイルからの対応するポート番号または範囲。	SIP は 5060
DSCP の値	46	34	24

## ネットワークで DSCP 値を設定

スイッチおよびルータを設定し、RTP メディアの IP ヘッダーで DSCP 値をマーキングします。ネットワーク内の DSCP 値を設定するには、クライアントアプリケーションからの異なるストリームを識別する必要があります。

- **メディア ストリーム**：クライアントは音声ストリームとビデオ ストリームに別々のポート範囲を使用するため、それらのポート範囲に基づいて音声メディアとビデオメディアを区別できます。SIP プロファイルのデフォルトのポート範囲を使用して、次のようにメディア パケットをマーキングする必要があります。
  - 音声メディアは、EF として、16384 ~ 24575 のポートでストリーミングする
  - ビデオメディアは、AF41 として、24575 ~ 32767 のポートでストリーミングする
- **シグナリングストリーム**：SIP、CTIQBE、およびXMPPに必要なさまざまなポートに基づいて、クライアントとサーバ間のシグナリングを識別できる。たとえば、Webex アプリと Cisco Unified Communications Manager 間の SIP シグナリングはポート 5060 を介して行われます。シグナリングパケットをCS3としてマークする必要がある。
- Webex アプリ のみのコールのポート範囲については、Webex アプリ の[ネットワーク要件](#)に関するドキュメントに記載されているガイドラインを使用してください。

## Unified CM で信頼できない証明書を許可する

必要に応じて、コントロールハブを使用して、ユニファイドCMからの信頼できない証明書を許可できます。これらは自己署名されているか、または証明書が接続に使用されているアドレスと一致しないため、信頼できない可能性があります。



**注意** この設定により、導入のセキュリティがダウングレードされます。証明書の信頼には、より安全な方法を使用することを強く推奨します。この方法は、ラボテスト環境などの限定的な導入のための最後の手段として使用してください。

### 始める前に

- このオプションを使用する前に、証明書の要件とベストプラクティスについて理解しておいてください：[証明書](#)の要件。
- iOS デバイスでは、プライベートなエンタープライズ証明書を使用している場合、デバイス自体にカスタムのルートCAをインストールする必要があります。そうしないと、Webex アプリは SSO 承認 URL への移動に失敗します。

---

**ステップ 1** <https://admin.webex.com> のお客様ビューで、[サービス (Services)] > [Calling] の順に選択し、[クライアント設定 (Client Settings)] を選択します。

**ステップ 2** Unified CM 設定で、**信頼されていない証明書を使用せずに CM 登録を許可する** をオンに切り替える。

このトグルをオンにすると、使用されている証明書の種類に関係なく、Webex アプリが Unified CM 環境に登録されます。

---



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。